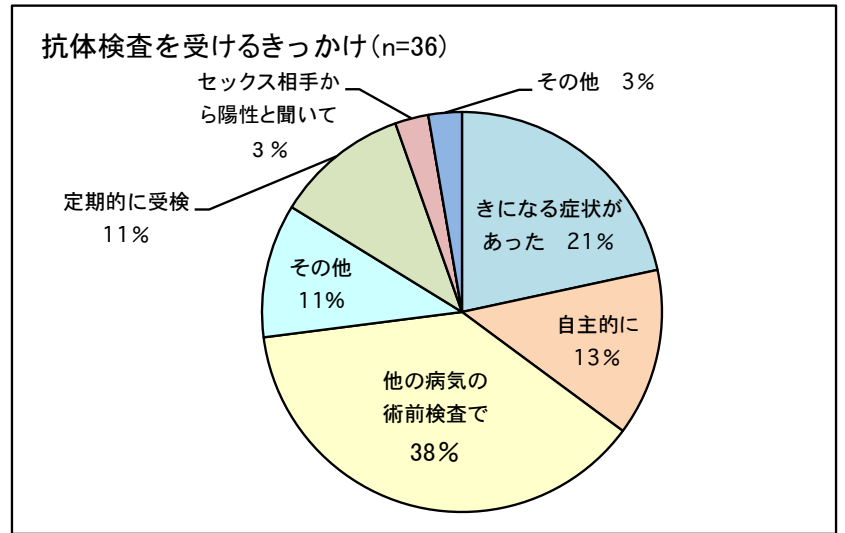
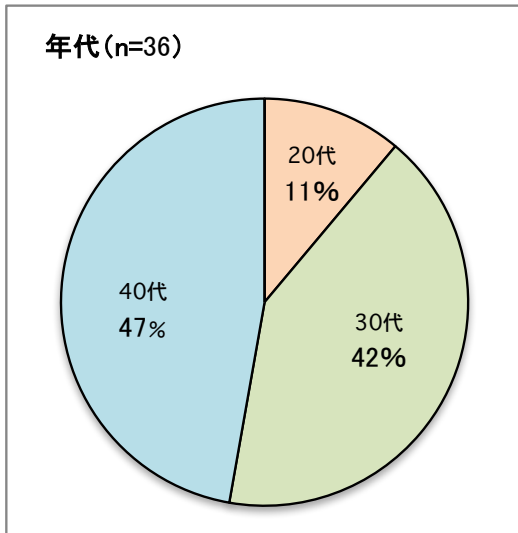


2016年度「感染がわかって6ヶ月以内のPGM」参加者のアンケートから

毎月感想文をお届けしているコーナーですが、今回は昨年度の「感染がわかって6ヶ月以内のPGM」参加者36名のアンケートから報告します。感染初期に参加した人たちの生の声が聞こえてきます。



参加者の声

人と交流することの大切さを、今一番感じる事ができたので良かった。

「仲間がいる」という安心感。

陽性者って十人十色だなあという実感と理解してくれる人もいるんだという希望(?)

陽性者の先輩からの話はとてもためになり、なぐさめ、励ましにつながった。

自分の考えと違い、「ハッ」と気づかされた事があった。

(HIVに)かかる前の自分を取り戻しつつあるんだなと思った。

検査をしていない人、HIVじゃない人にも知ってもらい、もっとHIVの知識やイメージが良い意味で広がってほしいです。

PGMへ参加する事で、冷静に自分のおかれている状況を考えるきっかけになりました。

自分と違う生き方、考え方を知り、その考え方にそって過ごしてみたりして、自分が成長できたと思います。

人の悩みやつらさを聞くことで、人にやさしくなれた気もするし、自分にもやさしくしていこうと思えたこと。

人生について前向きに考えられるようになりました。

時には強がりも必要ですが、ずっと強がってばかりいると、くたびれてしまいます。だんだんと自分に戻っていかないとね。

安心感、孤独感の軽減。言葉だけでなく、実際に同じ場所において同じ時間を過ごすだけでも、こういった気持ちになることができました。

陽性になっても、皆普通に暮らせていけるのだなと感じた。

